



「待つ」ことの先に

副校長 中川清志

新しい学年での学習が始まってから三か月が過ぎました。子供たちはそれぞれの学年での生活にも慣れ、落ち着いて日々の学びに向き合う姿が見られるようになってきました。教室では、友達と関わりながら考えを深めたり、自分なりの言葉で表現したりする姿が少しずつ増えてきており、成長を感じます。

現在の学校教育においては、学習指導要領にも示されているように、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「自ら考え、学び続ける力」を育むことが重要とされています。知識を一方向的に身に付けさせるのではなく、自分で問いをもち、考え、他者と関わりながら理解を深めていく力が求められています。そのために学校で大切にしていることの一つに、子供の思考や行動を「待つこと」や、「失敗を学びに生かすこと」があります。

授業の中で子供が考えているとき、大人はつい助言をしたくなるものです。しかし、そこで言葉を発する前に一歩踏みとどまり、子供自身が考える時間を保障することが、学びを深める上で重要であると考えています。自分の考えをもち、それを言葉にし、友達の考えと比べることで新たな見方に気付いていく、こうした過程そのものが、思考力・判断力・表現力を育てることにつながります。

また、学びの過程においては、「思うようにいかない経験」も欠かせません。間違えたり、うまく説明できなかつたりすることは、決して失敗ではなく、理解を深めるための大切な契機です。「なぜうまくいかなかったのか」「次はどうすればよいのか」と考えることによって、子供たちはより確かな学びへと近付いていきます。これは、粘り強く取り組む力や自己調整力の育成にもつながるものです。



学校では、今後も子供たちが安心して考え、試行錯誤できる学習環境の充実に努めてまいります。結果だけでなく過程を大切にし、一人一人の考えや歩みに寄り添いながら、これからの時代に求められる資質・能力の育成に取り組んでまいります。引き続き、保護者や地域の皆様と連携しながら、子供たちの健やかな成長を支えてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

《7月の生活目標》

身のまわりをきれいにしよう

- 教室の隅々まできれいにしよう。 ○身体を清潔にしよう。
- 整理整頓をしよう。(下駄箱、傘立て)

